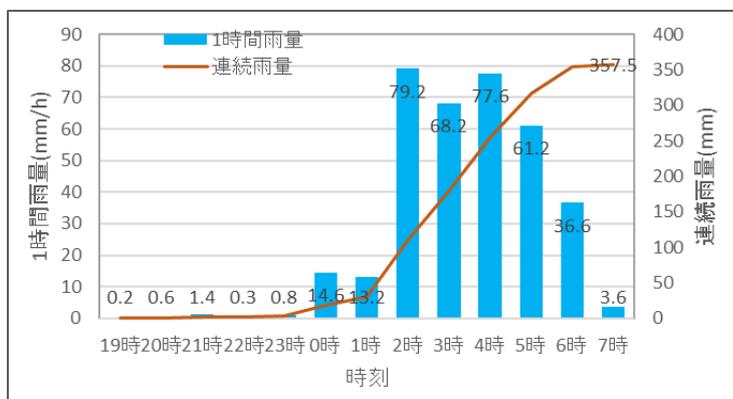


# 大正 15 年 9 月豪雨災害【大正 15(1926)年 9 月 11 日・23 日】

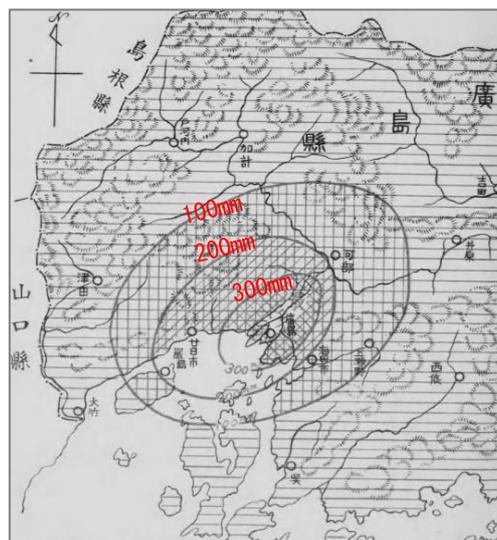
## ■気象の概要

この豪雨は、当時の広島市（ほぼ三角州地域）を中心とした周囲約 10km の非常に狭い範囲に数時間にわたって猛烈な雨が続いた特異な気象でした。大雨のピークは 11 日の午前 1 時から 6 時までの 5 時間で、この間の雨量は 322.8mm に達しました。11 日の日降水量 339.6mm、午前 1 時から 2 時までの時間雨量 79.2mm は広島測候所が設置（1879 年）されて以来、現在に至るまで観測史上第 1 位（時間雨量は 1888 年以降）の記録となっています。10 日の降り始めからの総雨量は 357.5mm でした。

広島周辺の総雨量をみると、厳島で 285.2mm、廿日市で 248mm でしたが、加計は 20.3mm、大竹は 16.5mm、呉はわずか 2.3mm に過ぎません。こうした局所的な集中豪雨は、平成 26 年 8.20 広島土砂災害時のような線状降水帯の発生を想起させます。当時の広島測候所の報告書によると、10 日の夕方に対馬海峡から中国山地に沿って若狭湾まで不連続な気圧の谷が生じ、その南側に局地的な小低気圧が発生し、これが 11 日未明の豪雨となったとしています。



広島市の降雨量（9月10日～11日）



総雨量図（9月10日～11日）

【広島測候所「大正 15 年 9 月 11 日豪雨報告」に一部加筆】

## ■被害の状況

この豪雨では、太田川上流の雨量が少なかったため、太田川の洪水、氾濫による被害はほとんどありません。広島市内では 1,000 棟以上が浸水し、その状況を写す写真もありますが、これは三角州上の市街地の排水能力が低かったためとみられます。

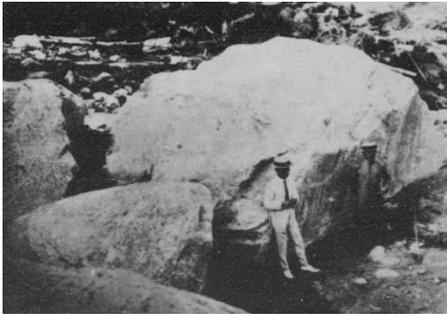
重大な被害をもたらしたのは、三角州を取り巻く山地から流れる中小河川の氾濫や土石流でした。畑賀村、山本村、府中村など被害の大きかった地区では、災害伝承碑や個別の資料が残されています。被害の全体像は、一部資料によって数字は異なりますが、広島測候所が作成した豪雨災害報告でその大きさをうかがうことができます。土砂災害が多発した広島市周辺の村々は、急傾斜の山地を背後に控え、当時は山麓や小河川沿いに棚田や段々畑が広がる農村地帯でした。現在は、そのほとんどが広島市に編入され、山麓斜面を住宅地が駆け上がっており、都市防災の面からも重要な地域となっています。

ちなみに、それまで「山津江（潰）」「蛇抜け」「山潮」等と言われた土石流に対し、この災害から「山津波（浪）」の呼称が使われるようになりました。



山本村の土石流（現、広島市安佐南区山本）

【広島測候所「大正 15 年 9 月 11 日豪雨報告」より】



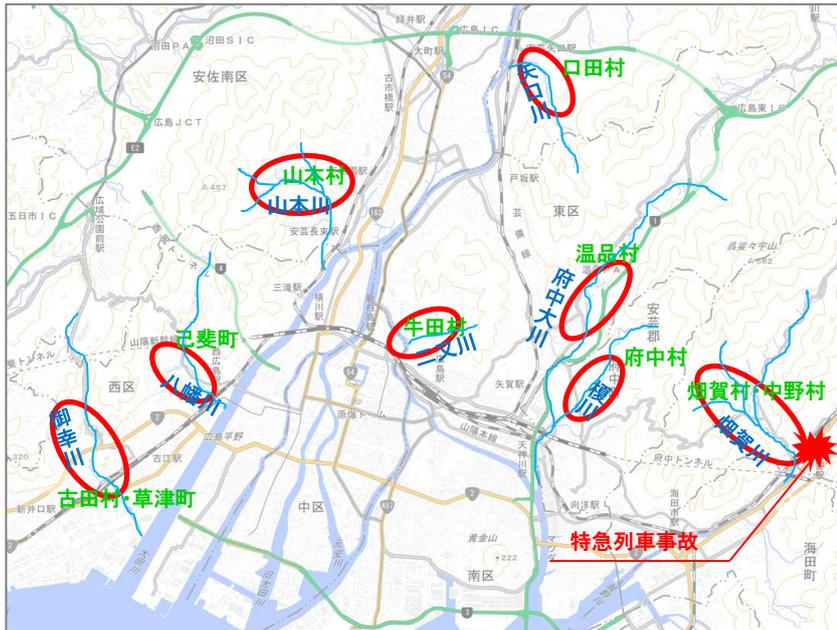
畑賀川の土石流で流下した巨石（現、広島市安芸区畑賀）【広島測候所「大正15年9月11日豪雨報告」より】



広島市上流川町の浸水状況（現、広島市中区鉄砲町）【提供：広島市公文書館】



牛田村の田畑流失状況（現、広島市東区牛田）【提供：広島市公文書館】



主な被災箇所と関連河川

### ●中野の特急列車脱線・転覆事故(9月23日)

11日の豪雨で被害が発生した畑賀川では、陸軍工兵隊などの支援を受け一応の応急復旧が行われました。しかし23日未明に再び豪雨があり（広島で31.6mm）、氾濫した水は山陽本線が載る築堤盛土を浸食し、午前3時30分頃、通りかかった東京発・下関行き当時最高級特急列車が安芸中野駅付近で脱線、転覆しました。この事故で外国人を含む34名が死亡（供養塔では36名）、社会的に地位の高い要人も事故に巻き込まれていました。

### ■市町村別被害(当時)

市町村	人的被害		住家被害	
	死者	負傷者	流失・崩壊	浸水
広島市	3	5	7	1,050
安芸郡				
牛田村	2	6	9	232
戸坂村			2	13
中山村			3	3
矢賀村	1	1	1	15
温品村	4	1	20	42
府中村	3	11	120	150
仁保村			10	267
船越村			10	
海田市町				129
奥海田村				40
畑賀村	36	11	43	18
中野村	3	1	10	18
下瀬野村			2	70
安佐郡				
三篠町			4	250
長束村				5
山本村	24	21	40	24
八木村			1	
緑井村			1	
安村				20
深川村		7	1	
狩小川村	1		4	20
福木村	1			
落合村			3	11
口田村	3		2	5
佐伯郡				
己斐町			32	800
古田村	3	20	26	93
草津町	1	10	3	700
井口村				14
五日市町			1	23
八幡村		2	3	29
観音村			2	
廿日市町				98
平良村				28
地御前村			1	298
大野村			1	200
計	85	96	362	4,665

【広島測候所：「大正15年9月11日豪雨報告」より】

※市町村の黄緑部分は現、広島市域



特急列車脱線転覆事故の状況（現、広島市安芸区中野）

【出典：広島県立文書館「資料デジタル画像」】

## 災害の記憶を伝える



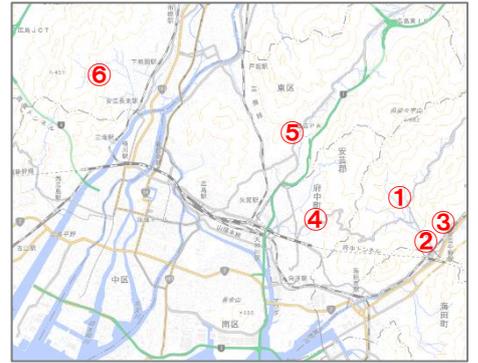
①畑賀村水害碑（広島市安芸区畑賀3丁目）

畑賀小学校に立つ高さ6mの碑は水害で流れ出した巨岩で昭和5年に造られました。碑文には11日の災害状況と応急復旧、23日の列車事故の状況、その後の本復旧などが刻まれています。さらに別額で死亡者名、被害実数表、復興及び碑建設の役員が記されています。



②水害記念碑（広島市安芸区中野1丁目）

畑賀川下流に位置する中野村下中野にあり、水害で荒廃した耕地の復旧工事完了を記念して建立されたものです。



伝承碑位置図（⑥については次ページ）



③鉄道遭難者追弔塔（広島市安芸区中野3丁目）

鉄道事故の際、一時遺体が収容された現場近くの専念寺には、翌年、遭難者を供養する追弔塔が建立されました。釣鐘型の台座に刻まれた犠牲者には、外国人の名前も見えます。



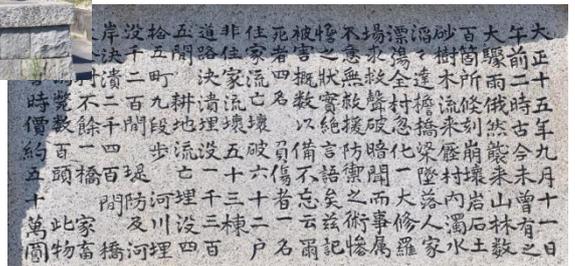
④水害記念碑（広島県府中町宮の町）

災害発生から18年後の昭和19年に建立された碑には、死者3名、堤防決壊3500間、橋梁流失20余、家屋流失26、半壊埋没101、耕地の荒廃66町などの被害状況とともに、天皇の下賜金や住民の団結により災害を克服したことへの礼賛が刻まれています。



⑤水害碑（広島市東区温品7丁目）

府中大川のほとりに立つ碑には、午前2時頃の豪雨で突然、土砂災害が村内の多数で発生したことや被害状況が記されています。被害の概数は死者4名、負傷1名、住家流失破損62戸、流亡埋没耕地45町9段など。



## 災害のない地域を目指して

### ●旧山本村の三面石張り河道と石積み堰堤

広島市街地の北東に位置する旧山本村（現、広島市安佐南区山本地区）では、大正 15 年 9 月豪雨で土石流や山崩れの発生により死者 24 人、負傷者 21 人、住家・耕地の流失などの大きな被害を受けました。災害後、広島第五師団の工兵隊や奉仕団の応援を受け応急復旧が行われましたが、昭和 3 年(1928)6 月の豪雨で山本川が氾濫し、復旧なったばかりの堤防や田畑は再び被害を受けました。

うち続く水害を受け、山本村では当時の瀬川卯一村長が陣頭に立ち、山本川の抜本的な改修の必要性を訴え、国や県の補助を得て昭和 7 年から村の直営事業として改修事業が開始されました。工事は、東山本川と西山本川の合流点を変え、合流後の河道も洪水が円滑に流れるよう直線的に付け替えられました。中・上流部では、河岸や川底の浸食を防ぐため三面石張りの河道・護岸に改められ、源流部でも小規模ながら石積み堰堤や石張り流路工が連続して造られました。

現在の山本地区は緩やかな斜面に住宅地が広がり、平時はその中の石張り水路を涼やかな水が流れ、住家が途切れた山中には気持ちの良い砂防溪流が続いています。先人たちの努力が、安全な地域と良好な水辺環境を創り出しています。



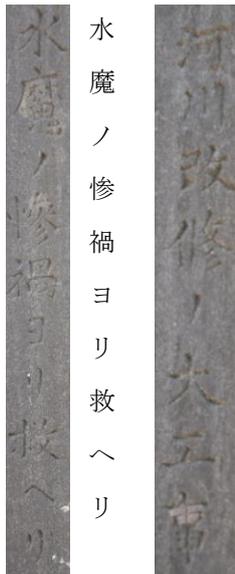
三面石張りの西山本川



河岸の巨石を巧みに取り込んだ源流部の石積み堰堤

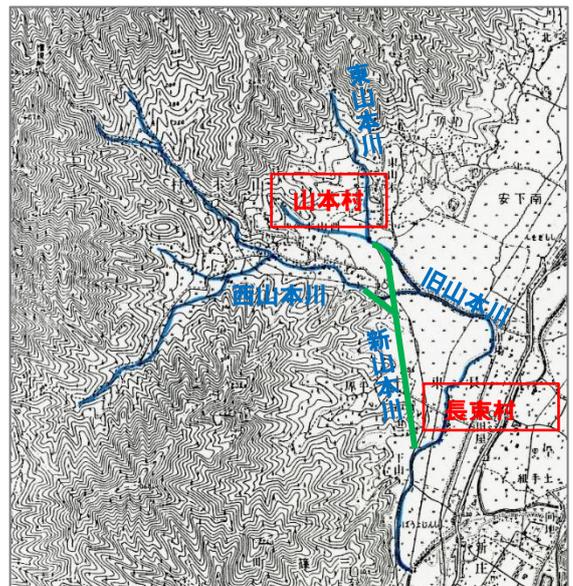


⑥瀬川卯一村翁頌徳碑（広島市安佐南区山本 7 丁目）



大正 15 年及び昭和 3 年の水害で大きな被害を受けた旧山本村では、昭和 7 年から約 10 年をかけて山本川の改修が行われました。平山神社の石段脇には、河川改修等に尽力した当時の瀬川卯一村長の功績を称える碑が昭和 18 年に建立されています。

※碑のキャプションをクリックすると位置が表示されます



山本川改修工事概略図

【地理調査所、大正 15 年測量、昭和 27 年発行「祇園」図幅に一部加筆】